

第4次中期経営計画説明会

 **丸一鋼管株式会社**

会長 鈴木博之

目 次

I 第4次中期経営計画の概要	…	P.2
II 第3次中期経営計画の成果と反省	…	P.21
III (参考資料)当社グループを取り巻く環境	…	P.32

2015年3月31日

I 第4次中期経営計画の概要

(2015年4月～2018年3月)

I-1 第4次中期経営計画の重点

①国内での競争力の優位性を維持

②海外では、SUNSCO/Leavittの収益力向上にグループを
挙げて注力

その他地域では、市場の成長に合わせて設備投資を継続

③資本政策では、自社株買いを積極的に実施

④社会貢献として、収益の一定額を地域社会に還元する目標を設定

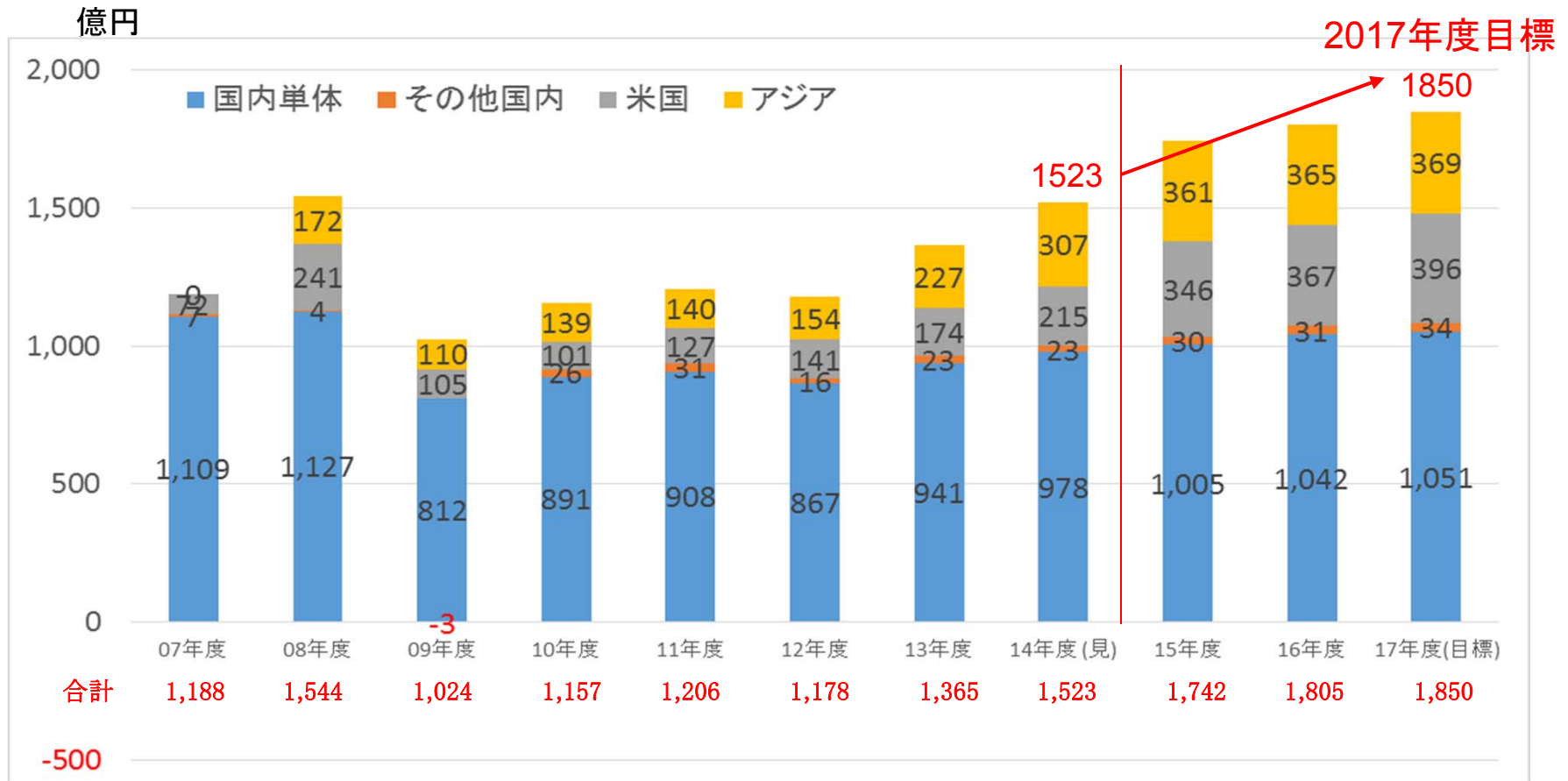
I-1-① 今後3年間の環境認識

- ①国内は、景気対策の浸透、大型プロジェクトの具体化等により、緩やかな成長を期待
- ②海外は、米国経済の好調、新興国の比較的安定した成長は期待できるが、中国の鉄鋼供給過剰、及び資源価格の暴落のため、足元の国際鉄鋼市況は悪化
- ③円安により、需要家の海外への生産シフトは大きく進まないが、自動車など国内への生産回帰も限定的で、引き続き海外が当社成長のための重点投資分野
- ④なお、為替レートは1ドル115円を想定

I-2 第4次中期経営計画の目標

	2012年度	2013年度	2014年度(見)	2017年度目標
売上高	1,177	1,365	1,523	1,850
営業利益	154	201	178	225
営業利益率	13%	15%	12%	12%
ROE	5.0%	6.1%	3.3%	6.5%以上
株主還元率 (3年平均)	52.3%			70%以上
社会への 利益還元				配当実施後の 単体純利益の 0.5%程度

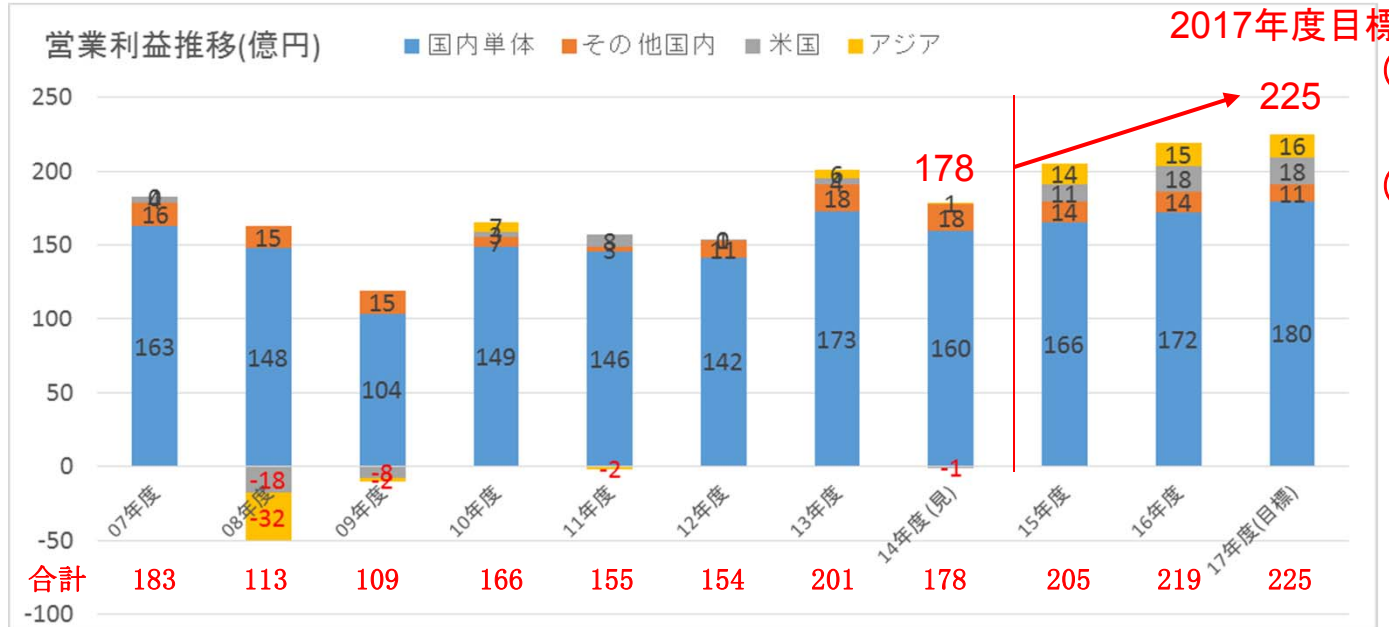
I-2-① 売上高目標:2017年度:1,850億円



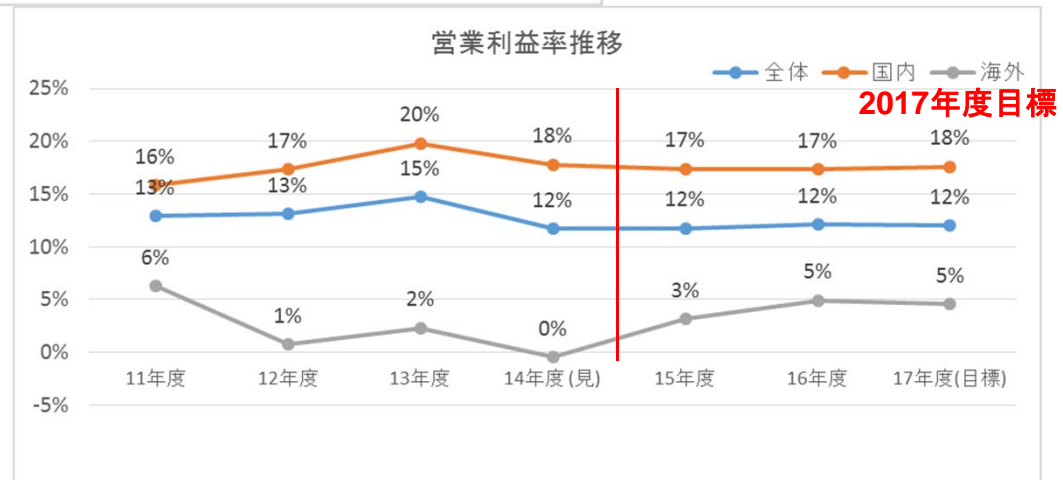
①国内:景気の回復と大型プロジェクト等により、穏やかな成長を期待

②海外:新規設備の稼働率向上、米国や新興国の景気回復、自動車生産の伸びを期待

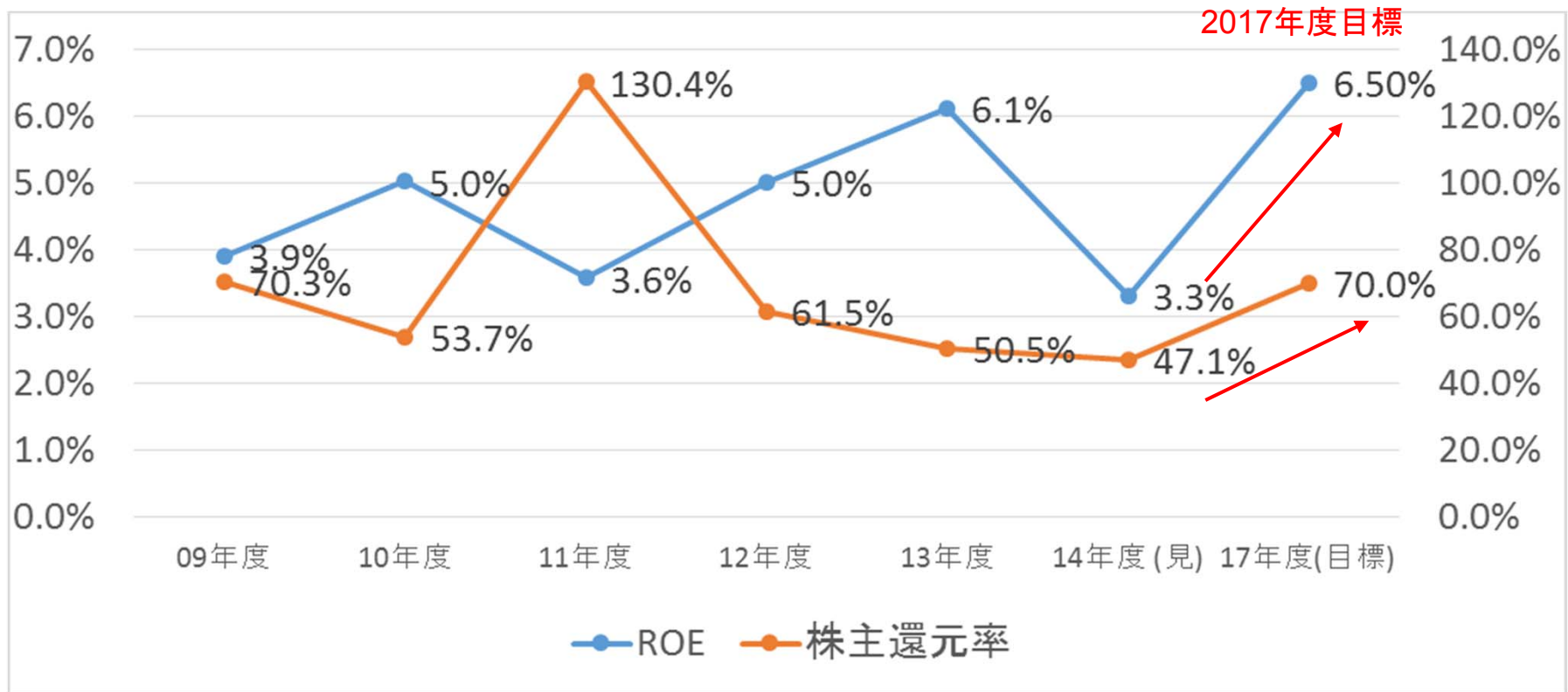
I-2-② 営業利益目標:225億円、 営業利益率:12%



- 2017年度目標
- ①国内の高い収益率を維持
 - ②SUNSCO(HCM)/Leavittでの収益強化



I-2-③ 資本政策目標: ROE:6.5%以上 3ヶ年平均株主還元率:70%以上



高い配当性向の維持、高い収益性と自社株買いにより、
3年間平均の株主還元率:70%以上、ROE:6.5% 以上を目指す

I -2-④ 社会還元目標

配当実施後の単体純利益の0.5%程度を
国内外の地域社会の文化、教育、スポーツ、環境保護活動等に
提供

I-3 第4次中期経営計画の 主要施策

I-3-① 主要施策①

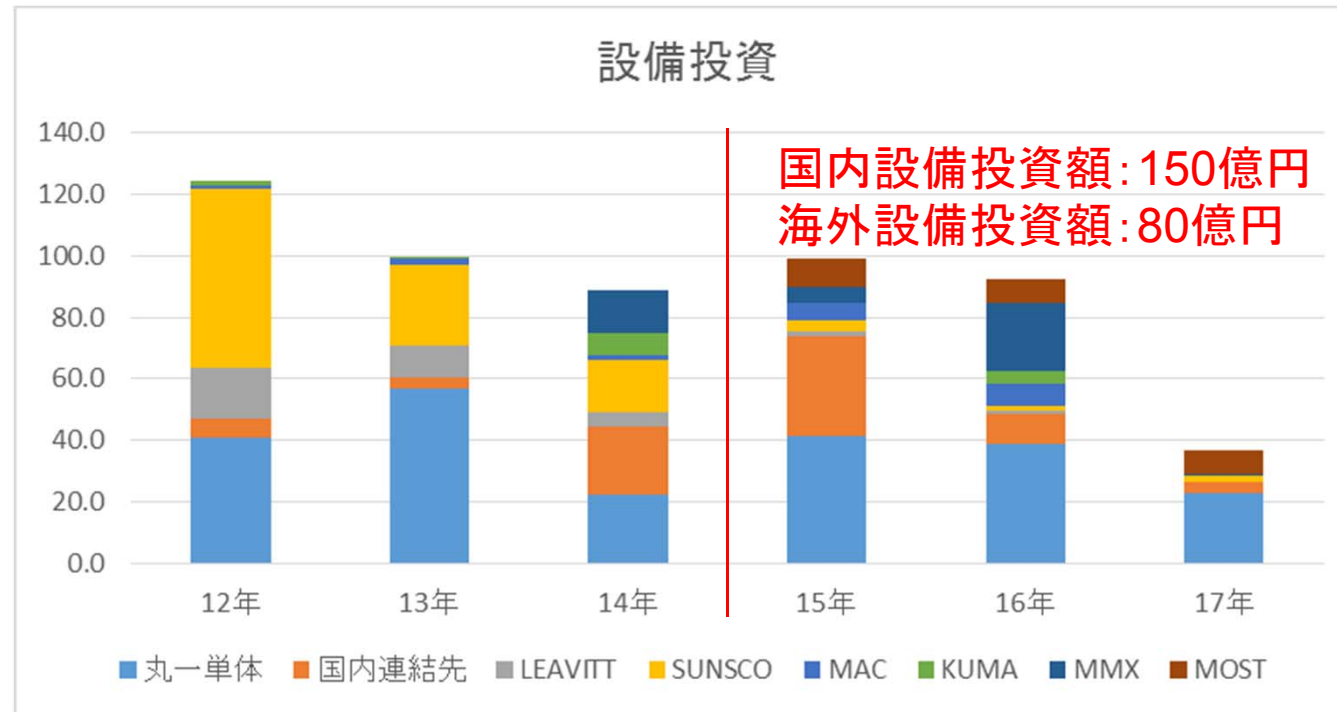
1. 成長戦略：海外を中心とした成長の継続と 国内外での高い収益率の実現

1) 国内業務での高収益率の維持と国内工場の設備改造と効率化

- ① 国内老朽化設備の改修を進め、生産効率を向上
⇒ 国内工場の設備更新: 3カ年総投資額: 150億円(関連工場を含む)
- ② 国内の生産体制の再構築、効率化と人員の適正な配置
⇒ 大阪工場の堺工場への集約
- ③ 国内の競争力維持を目的に、製造販売体制をさらに強化
⇒ 採用と人材教育に一層注力

今後3年間の設備投資計画

(億円)



	12年	13年	14年	合計	15年	16年	17年	合計
設備投資合計	124	100	89	313	99	93	37	228
国内	47	60	45	152	74	49	27	149
海外	78	39	44	161	25	44	10	79
減価償却費合計	44	52	60	156	64	67	71	202
国内	28	27	27	82	27	28	28	83
海外	17	25	33	74	37	39	43	119

I -3-② 主要施策②

2) 海外でのこれまでの投資を活かした収益力の増強

① SUNSCO/Leavittでの新規設備のフル稼働と営業力の増強による収益力の向上

⇒ SUNSCO(HCM): ベトナム国内での販売力強化による、16”・小径管・

CGL・CCL製品の拡販

API製品の米国及びその他地域への販売、輸出採算の改善

⇒ Leavitt: 設備の安定操業、

API/ASTMA53B、自動車及び他ユーザー向け製品の営業力強化

② 米国西海岸・カナダでの販売拡大

⇒ MAC: 設備改造投資による生産の効率化と営業力強化による拡販

⇒ MOST: Portlandの既存ミル買収による米国北西部での市場開拓

【ベトナム】SUNSCO (HCM) 社:

- ① ベトナム国内での販売力強化による、
16“、小径管、CGL・CCL製品の販売拡大
- ② API製品の米国およびその他地域への販売強化、輸出採算改善



第2CGL
(2013年9月完成)



第2CCL
(2013年6月完成)



小径管(1号機、2号機)
(2014年3月、9月完成)

【米国】 Leavitt/シカゴ工場:設備の安定操業、 ユーザー向け営業力の強化

●建築用鋼管分野

2011年1月 W80(12インチ)ミル改造(US\$12百万)

クイックロール交換システムの導入

2012年1月 W50(5インチ)ミル更新(US\$15百万)

●自動車用鋼管分野

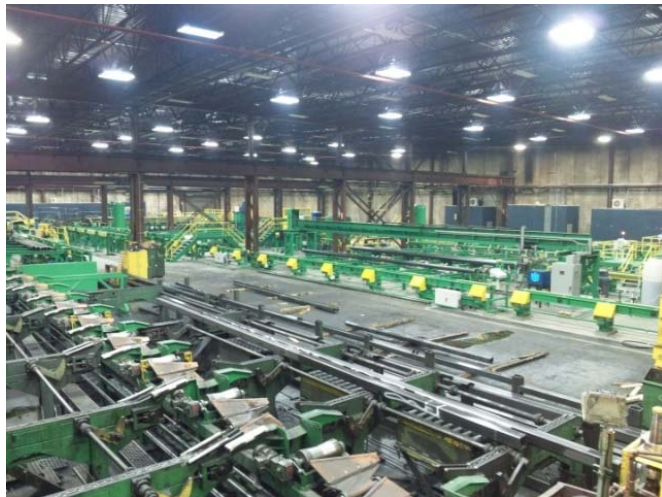
2012年2月 2インチミル新設(US\$3百万)

2013年4月 0.5インチミル導入(US\$3百万)

●APIラインパイプ分野 米国北東部のシェールガス開発でマーケット拡大を見込む。

2013年8月 W80ミル改造(US\$20百万)

2014年4月 米石油協会規格(API)のモノグラム取得



W80 12インチミル

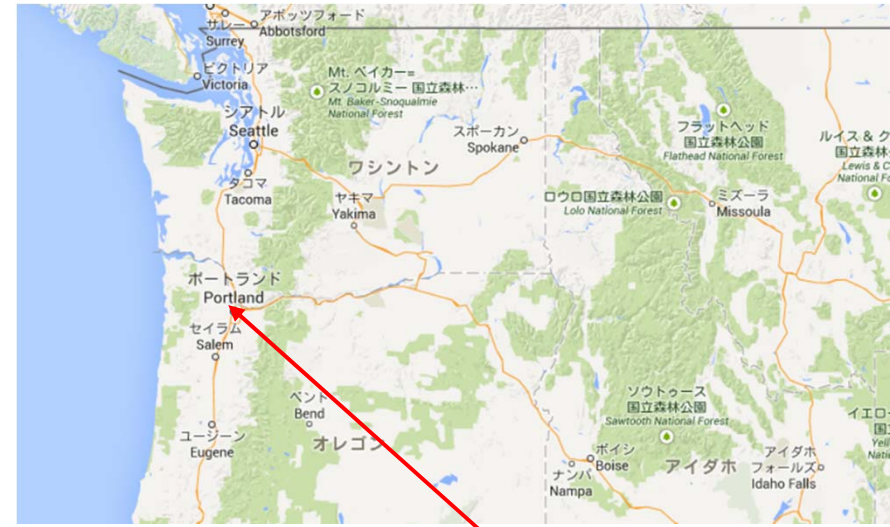


0.5インチミル

【米国】 北西部(Portland)/Maruichi Oregon Steel Tube 米国北西部及びカナダ西部での市場開拓

2015年3月 Evraz NA INC.より構造用鋼管部門を買収

- ①所在地：Oregon州Portland市
- ②敷地面積：92,000m²、工場面積：16,000m²
- ③主要設備：12"mill、Slitter、鉄道引込線
- ④生産：約5,000mt/月
- ⑤工場設立：2000年



MAC (ロスアンゼルス)とLeavitt(シカゴ)とともに、
米国での「需要地生産体制」をさらに充実し、
米国・カナダでの事業を拡大



I -3-③ 主要施策③

- ③自動車二輪車関連：必要な投資を継続し、各地域での日系メーカー取引の強化
 - ⇒メキシコ：自動車各社の生産シフトへの積極的対応と
欧米系企業との取引拡大
 - ⇒インド：バンガロール新工場を活用した販売拡大と収益力の強化
 - ⇒中国、ベトナム、インドネシア、米国(Leavitt)：更に競争力を高め収益力を
確保
 - ⇒自動車分野での新しい地域や新しい分野への展開の検討

- ④非自動車関連でも新たなビジネスに挑戦する
 - ⇒日系進出企業を含めた各地のユーザーへの対応を強化

- ⑤「海外で活躍できる人材」の育成と、「現地人材のレベルアップ」に注力
 - ⇒引き続き若手を中心に「海外で活躍できる人材」を育成
 - ⇒現地人材の登用。海外出向経験者の比率を高め、
帰国後の海外経験を生かした国内での活躍

【メキシコ】 日系自動車メーカーの進出対応と欧米系取引拡大

MARUICHIMEX S.A. de C.V.社(MMX社)

場所	アグアスカリエンテス州
設立	2012年1月
事業内容	自動車向け鋼管の製造・販売
資本金	US \$ 2,080万相当
工場敷地面積	30,000㎡
工場面積	第1工場6,000㎡/第2工場 7,500㎡
設備	造管機3台・切断機7台
完成	2013年4月
第2工場完成(2015年3月)	
Queretaro州に土地(35千㎡)取得(2015年1月)	

MMX社



AMX社

AIPHAMETAL MEXICO S.A.de C.V.社(AMX社)

場所	アグアスカリエンテス州
設立	2014年8月
事業内容	アルファメタル社の技術経験を生かした 自動車向け鋼管の加工



【インド・インドネシア】新工場を活用した販売拡大と収益強化

インドでの鋼管事業の拡大

MARUICHI KUMA社
二輪車・四輪車向けのステンレス鋼管を生産

KUMA社
マネサール工場
(ニューデリー近郊)
設備: 2インチミル
1インチミル



KUMA社バンガ
ロール工場
敷地: 12,000㎡
建屋: 8,700㎡
設備: 2インチミル
2015年2月完成



Bangalore新工場

インドネシアでの鋼管事業の拡大

2013年8月 ISTW社新チカラン工場が完成

投資額 : 16億円
工場敷地面積 : 50,000 m²
工場面積 : 12,000m²
設備 : 造管機1台、Slitter、
切断機



ジャカルタ東部 新チカラン工場

I -3-④ 主要施策④

2. 株主重視の資本政策: 高い配当性向の維持、株主還元率とROEの引上げ

① 高い配当性向の維持

⇒「単体経常利益 × (1-法人実効税率) × 50%」の配当方針の継続
 法人実効税率引下げ効果を配当でも還元
 また、最低配当額は現行の30円から50円に引上げ

② 高い収益性の維持と積極的な自社株買いによる株主重視政策

⇒株主還元率(70%以上)及びROE(6.5%以上)の引上げ

3. 社会貢献: 社会とともに成長・発展するサステナブル企業グループとして 収益の一定部分を社会に還元

⇒配当実施後の単体純利益の0.5%程度を国内外の地域社会の
 文化、教育、医療、スポーツ、環境保護活動等に提供

Ⅱ 第3次中期経営計画の 成果と反省

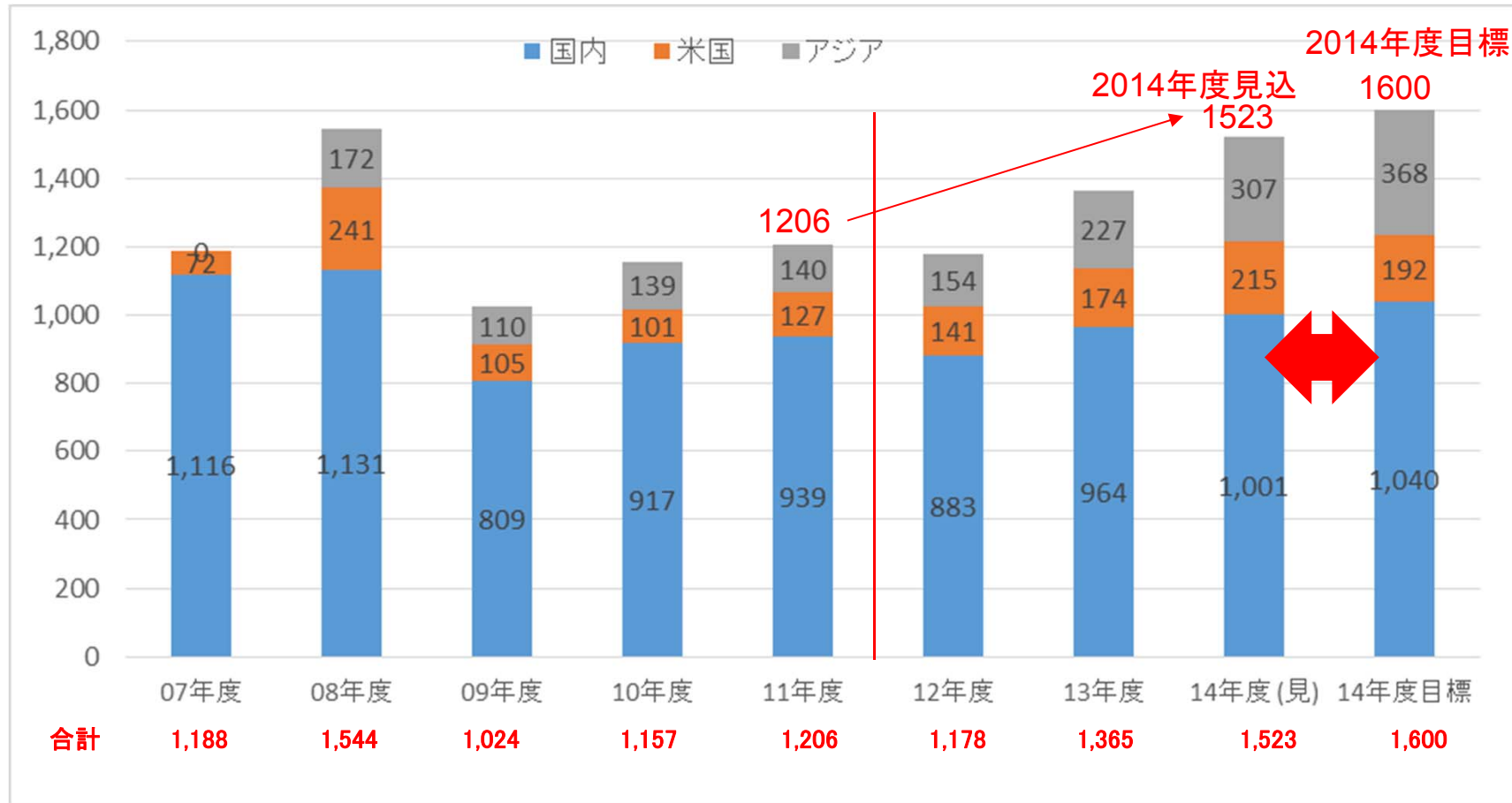
Ⅱ-1 売上収益目標の達成状況

	第3次中期経営計画期間				
	2011年度 実績	2012年度 実績	2013年度 実績	2014年度 目標	2014年度 見込(注)
売上高	1,206	1,178	1,365	1,600	1,523
同海外比率	22.1%	25.0%	29.3%	35.0%	34.5%
営業利益	155	154	201	200	178
同海外比率	3.8%	0.6%	5.0%	20.0%	0%
経常利益	177	176	226	220	199
純利益	75	107	137	120	77

(注)2014年度見込:3月23日発表の今期見込み金額を使用

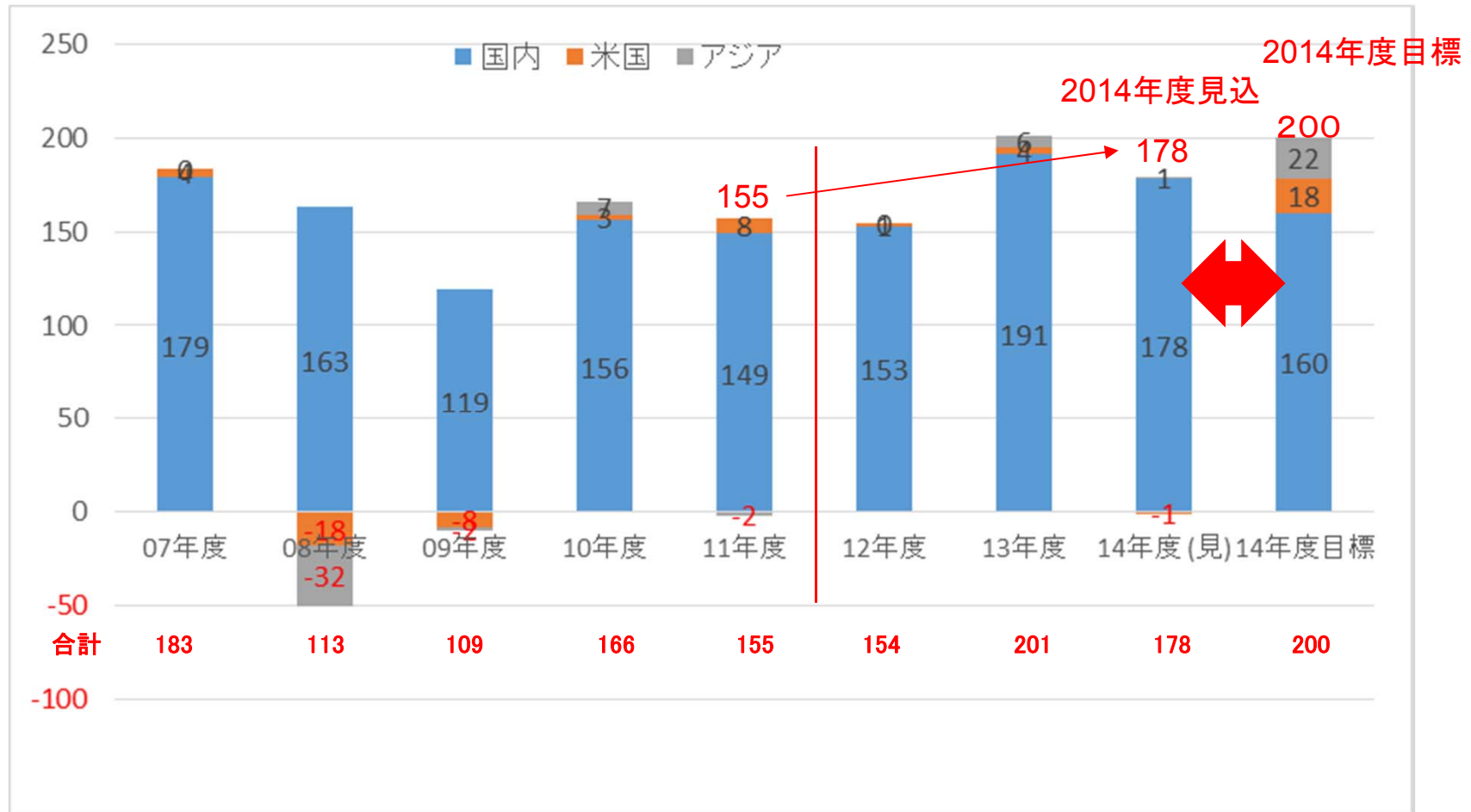
- ①売上高は大幅に増加し、目標をほぼ達成
- ②収益目標は2013年度で達成したが、2014年度では大幅未達
- ③収益目標は大幅未達の原因は、海外のSUNSCO及びLeavitt2社の不振による
(2014年度設備減損: SUNSCO(HCM):41億円、Leavitt:13億円)

Ⅱ-1-① 売上高



- ①売上高は大幅に増加(2011年度比26.3%増)、ほぼ目標を達成
- ②海外比率:2011年度:22.1% ⇒2014年度:34.5%

Ⅱ-1-② 営業利益

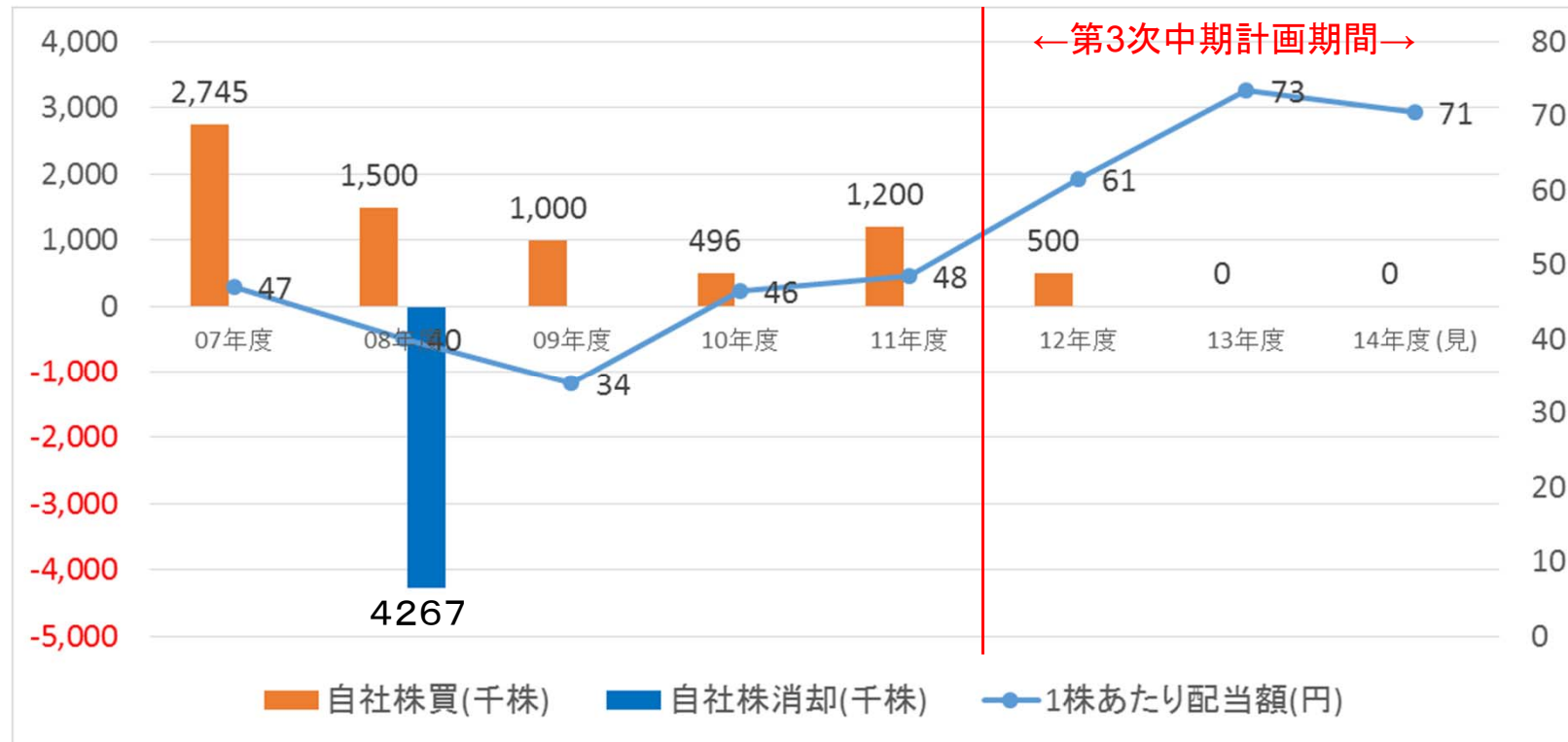


- ①2013年度に、国内業績に好調により、2014年度目標を一旦達成
- ②2014年度は、SUNSCO(HCM)/Leavittの不振により、目標大幅未達

Ⅱ-1-③ 各目標の達成状況

	2011年 実績	2012年 実績	2013年 実績	2014年			コメント
				当初計画	見込	達成率	
売上高	1,206	1,178	1,365	1,600	1,523	95%	海外の新会社/新設備の立ち上げもあり、 大幅増収。売上目標及び海外比率も ほぼ達成
国内	939	883	964	1,040	1,001	96%	
北米	127	141	174	192	215	112%	
アジア	140	154	227	368	307	83%	
営業利益	155	154	201	200	178	89%	国内の好調により2013年度に最終目標を達成。 SUNSCO(HCM)/Leavittの不振により 計画大幅未達
国内	149	153	191	160	178	111%	
北米	8	1	4	18	-1	-	
アジア	-2	0	6	22	1	5%	
経常利益	177	176	226	220	199	90%	同上
国内	169	166	205	180	193	107%	
北米	7	1	4	18	-1	-6%	
アジア	-1	9	17	22	7	32%	
純利益	75	107	137	120	77	59%	国内は好調 Leavittの不振、設備減損により大幅未達 SUNSCO(HCM)の不振、設備減損により大幅未達
国内	75	113	119	105	126	120%	
北米	2	-13	3	7	-13	-	
アジア	-2	7	15	8	-36	-	

Ⅱ-1-④ 資本政策



- ①配当方針の変更: 第3次中期計画の初年度の2012年度より、配当性向を従来の40%から50%に引上げ「 $\text{単体経常利益} \times (1 - \text{法人税実効税率}) \times 50\%$ 」の配当方針により、一株あたり配当額を増額
- ②3年間の平均株主還元率: 52.3%、自社株買い: 500千株の実施

Ⅱ-2 成果と反省

1) 国内での成果

- ①景気回復により、国内での強み・競争力を維持しつつ、目標を達成
- ②東京工場と第2工場の統合を完了。国内の余剰設備を改修し、海外への移転再利用もほぼ計画通り
- ③太陽光発電も、詫間、東京、堺工場など9カ所で稼働開始
- ④東北地区の拠点拡充により、復興需要を取り込む体制完成

2) 海外での成果と反省

- ①Leavitt・SUNSCO(HCM)の大型設備投資を完了
- ②メキシコでの新会社MMX・AMX及びKUMA・ISTWの新工場も計画通りに操業を開始
- ③自動車二輪車関係は、円高局面での海外生産シフトに対応して、総じて好調に拡大し、目標を概ね達成
- ④米国Portlandでの構造用鋼管工場買収によるMaruichi Oregon Steel Tube (MOST)社の設立
- ⑤SUNSCO・Leavittは、市況の悪化によるSpreadの縮小、減価償却負担の増加、平成27年3月期末での設備減損の実施により収益悪化。今後の設備稼働率の上昇と営業力の強化が課題

3) 資本政策

- ①配当方針の変更：第3次中期計画の初年度の2012年度より、配当性向を従来の40%から50%に上げ
「単体経常利益×(1-法人税実効税率)×50%」の配当方針により、一株あたり配当額を増額
- ②3年間の平均株主還元率：52.3%、自社株買い：500千株の実施

【国内工場】新東京工場 誕生

2014年3月 集約工事完了

移転プロジェクト概要

東京外かく環状道路事業により、旧東京工場の一部が収用されることから、新東京工場内に新工場(第3製管工場)を建設し、移転集約

投資額:約 60億円

工場収用関連工事(工場建屋・厚生棟・造管機5機・スリッター)	55億円
福利厚生関連工事(寮・社宅)	5.5億円



新東京工場(旧東京第二工場) 航空写真



新第3製管工場(外観)

【国内工場】 太陽光発電事業概要(2015年)

設置拠点	: 国内工場7工場
投資額	: 約25億円
発電量合計	: 10,078.5キロワット
予想年間発電量合計	: 約980万キロワットアワー
予想年間売電収入	: 約3.8億円

苫小牧工場
 投資額 : 6億円
 最大出力 : 2,171.0kW
 予想年間発電量 : 1,983.2MWh
 (2015年2月より売電開始)

東京工場
 ・第3製管
 投資額 : 3億3,000万円
 最大出力 : 1,478.4kW
 予想年間発電量 : 1,382.3MWh
 ・第3倉庫
 投資額 : 2億円
 最大出力 : 837.0kW
 予想年間発電量 : 755.2MWh

堺特品工場
 投資額 : 1億円
 最大出力 : 392.0kW
 予想年間発電量 : 376.0MWh

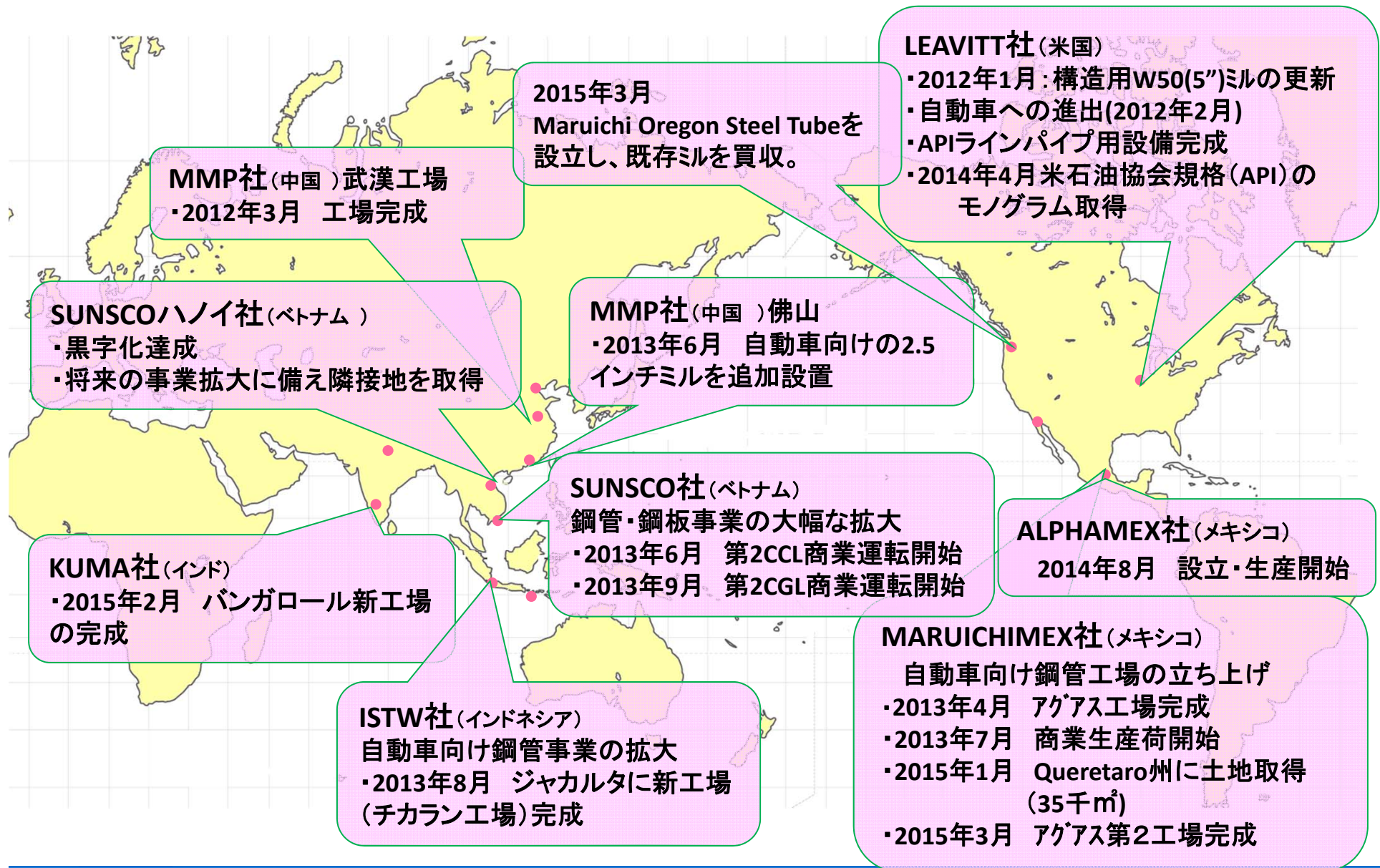
堺工場(第6工場/第4倉庫・コラム倉庫)
 投資額 : 3億円
 最大出力 : 1,263.0kW
 予想年間発電量 : 1,209.0MWh

詫間工場
 投資額 : 5億3,000万円
 最大出力 : 2,016.0kW
 予想年間発電量 : 2,484.6MWh

名古屋工場
 投資額 : 2億4,000万円
 最大出力 : 1,023.1kW
 予想年間発電量 : 709.8MWh
 (2015年2月より売電開始)

セイケイ
 投資額 : 1億9,000万円
 最大出力 : 898.0kW
 予想年間発電量 : 877.3MWh

【海外】第3次中期経営計画の成果



海外生産拠点

アジア

丸一金属製品(天津) 有限公司(中国)

丸一金属製品 武漢工場(中国)

丸一金属製品(佛山) 有限公司(中国)

SUNSCO(ハノイ)社 (ベトナム)

J-スパイラル社 (ベトナム)

SUNSCO社 (ベトナム)

ISTW社チカラン工場 (インドネシア)

ISTW社ジャカルタ工場 (インドネシア)

ISTW社セマラン工場 (インドネシア)

KUMA社(インド) Manesar工場

KUMA社(インド) Bangalore工場

米州

MOST社 (アメリカ)

Leavitt社 シカゴ工場 (アメリカ)

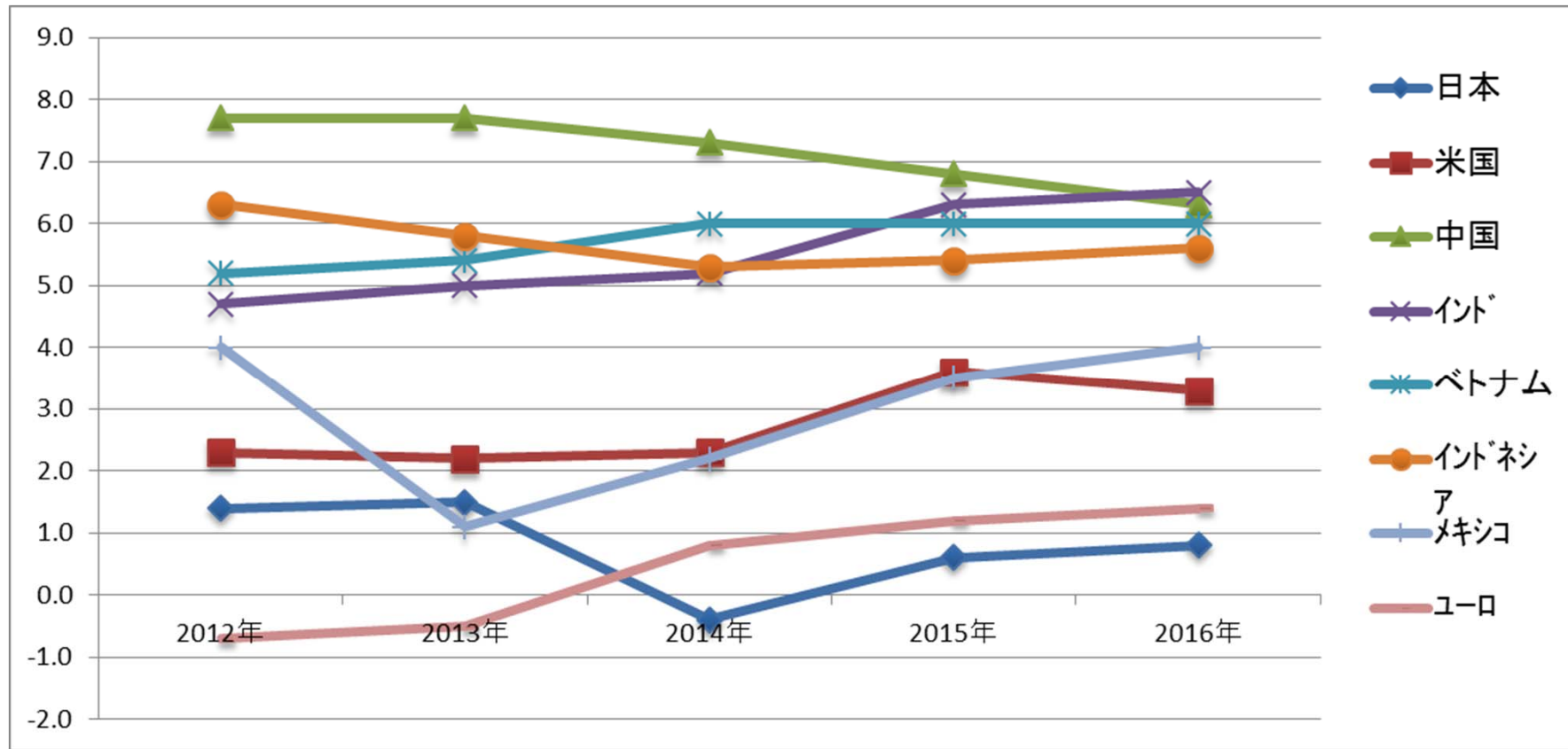
MAC社 (アメリカ)

AMX社 (メキシコ)

MARUICHIMEX社 (メキシコ)

Ⅲ (参考資料)当社グループを取り巻く環境

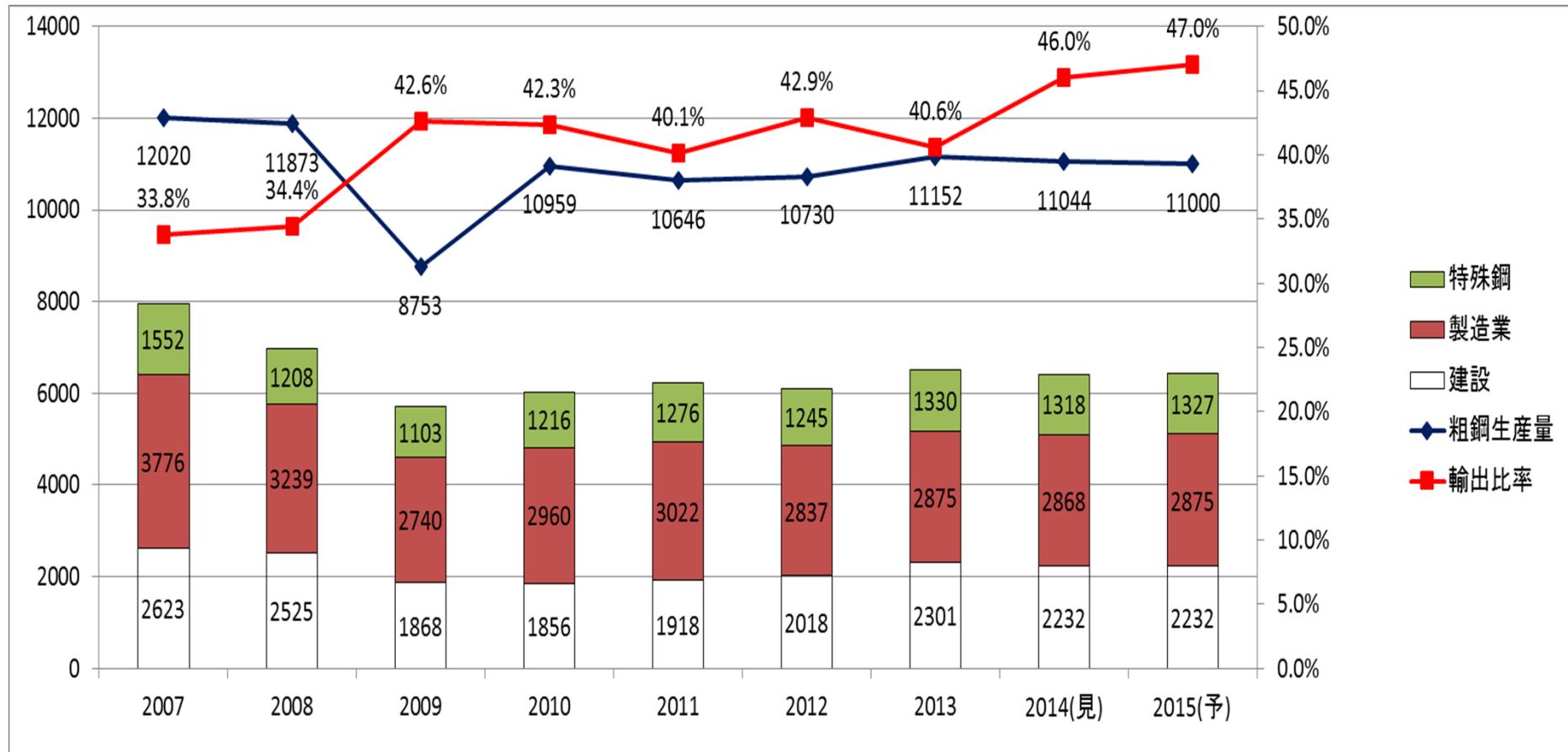
①世界各国の経済成長予測



(出所:IMF等の予想をもとに作成)

米国、新興国は引き続き比較的高い成長率を実現
日本は、緩やかな回復

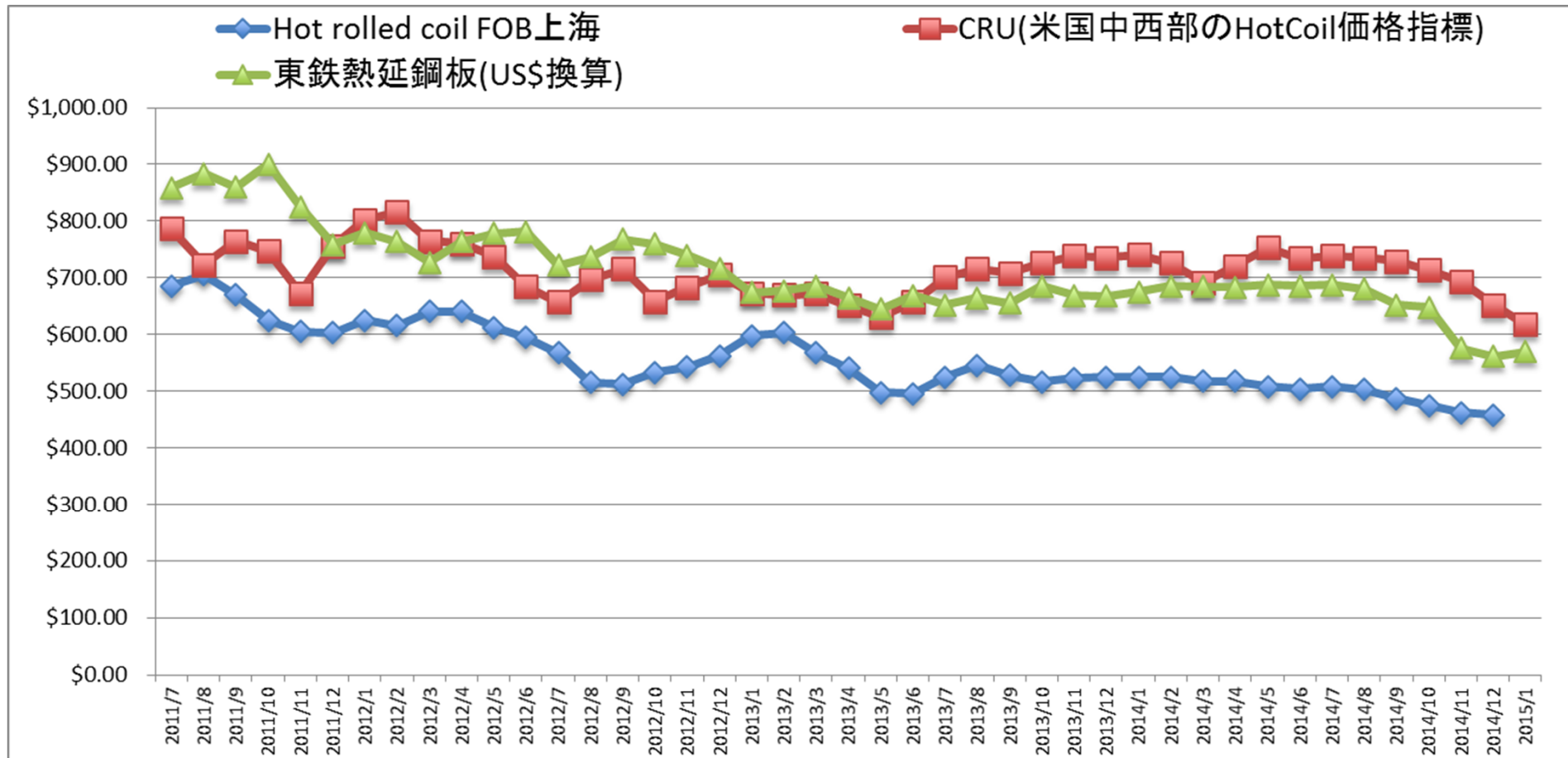
②国内鉄鋼需要の推移



(出所: 鉄鋼連盟等の資料により作成)

国内鉄鋼需要は、リーマンショック前の80%に回復、今後も緩やかな回復が続くと期待

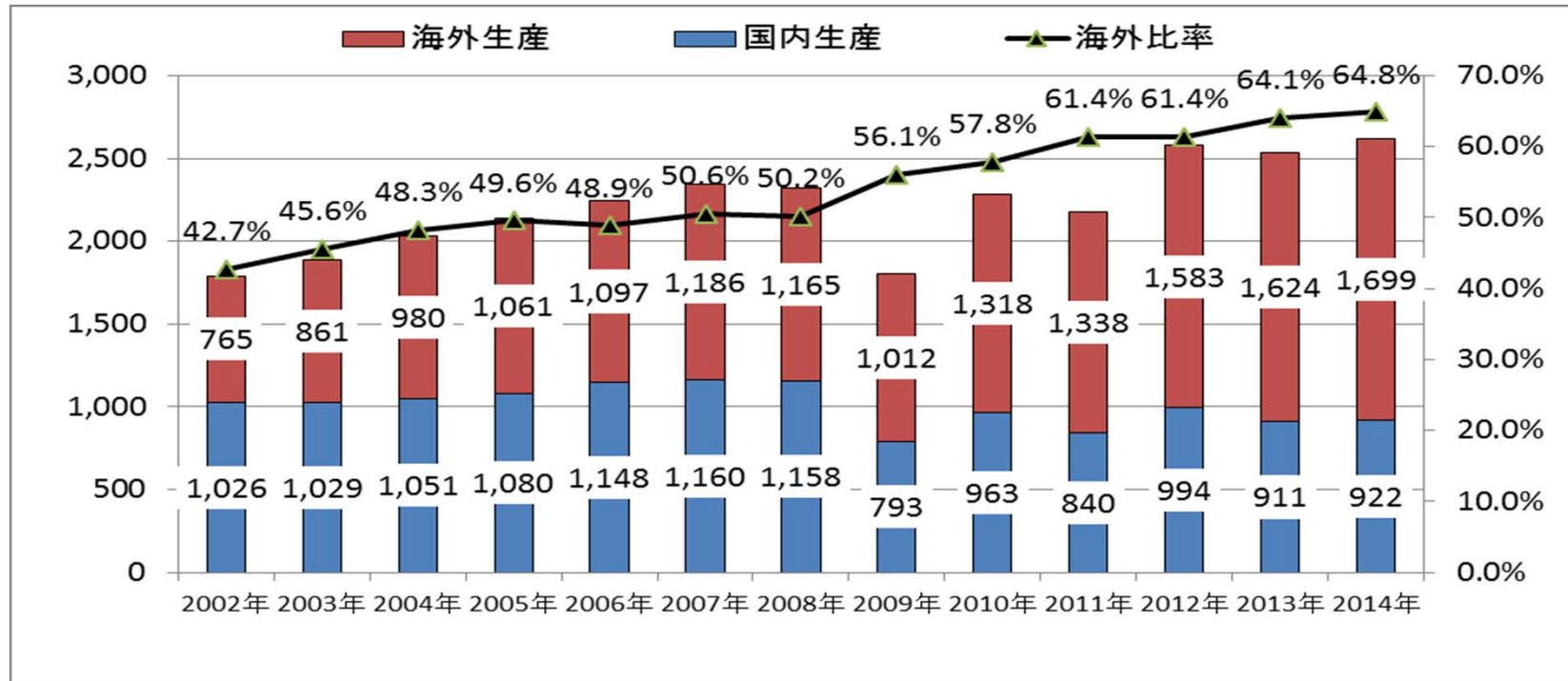
③鉄鋼国際市況動向



(出所:各種統計資料により作成)

中国の輸出価格が下がり続け、その影響もあり、2014年末からアジア・米国の市況が急激に悪化。その回復には時間がかかる

④ 日系自動車メーカーの海外生産シフト



	2014年			(千台)	2013年 海外比率
	国内	うち輸出	海外		
トヨタ	3,267	1,789	5,738	63.7%	62.2%
日産	881	473	4,217	82.7%	80.5%
ホンダ	958	31	3,556	78.8%	80.4%
スズキ	1,059	148	1,957	64.9%	65.7%
三菱	641	371	621	49.2%	52.3%
マツダ	934	761	394	29.7%	23.6%
ダイハツ	782	8	316	28.8%	25.9%
富士重	696	542	193	21.7%	20.9%
合計	9,218	4,123	16,992	64.8%	64.1%

(出所: 自工連資料等により作成)

**円安により海外生産シフトは
Speed Downしているが、
自動車メーカーの「地産地消」方針は
変わらず**

 **丸一鋼管株式会社**

注意事項

本資料の計画・見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものです。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの計画・見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。